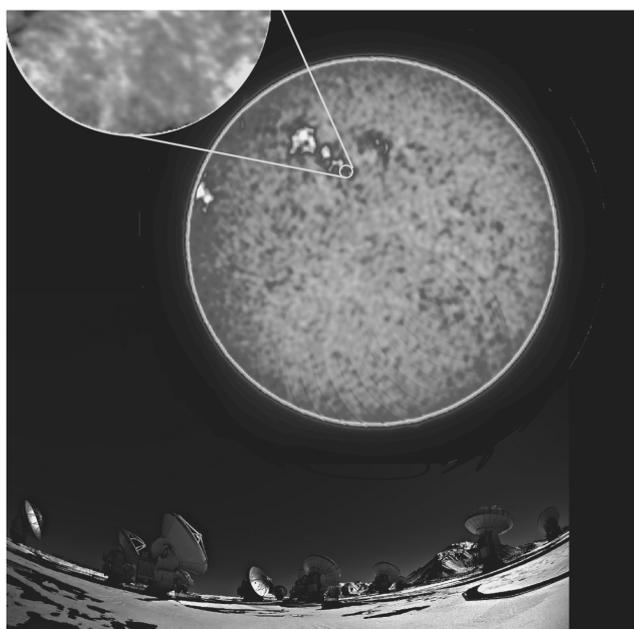
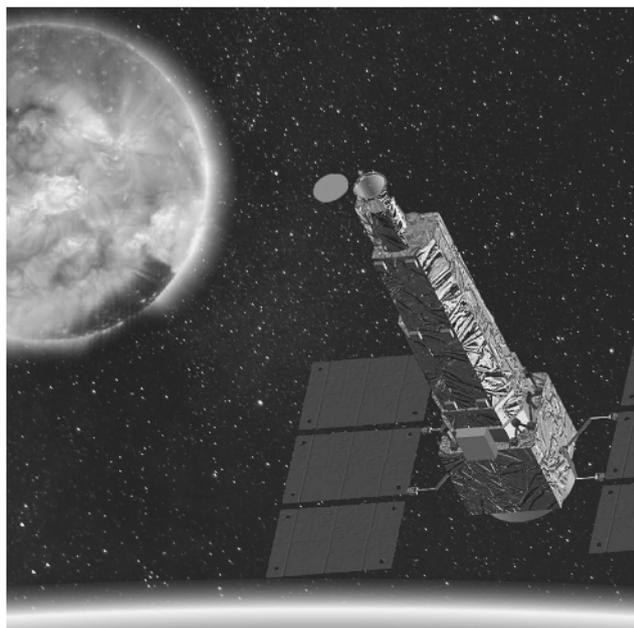


総合研究大学院大学 社会連携事業 11月1日(日) & 8日(日) 開催

おうちで天文・宇宙 オンライン講演会



11月1日(日)

14:00-14:40

「ガリレオからALMA・DKISTへ
一太陽観測今昔物語一」

講演者: 下条 圭美 (国立天文台 准教授)

14:40-15:20

「宇宙からの太陽観測研究から
目が離せない」

講演者: 清水 敏文
(JAXA宇宙科学研究所 准教授)

15:20-15:40 座談会

11月8日(日)

14:00-14:40

「巨大望遠鏡で探る
100億光年彼方の銀河」

講演者: 但木 謙一 (国立天文台フェロー)

14:40-15:20

「ミリ波偏光観測で探る
インフレーション宇宙」

講演者: 関本 裕太郎
(JAXA宇宙科学研究所 教授)

15:20-15:40 座談会

質問受付中。 #太陽と初期宇宙 をつけてつぶやいてください。

お申し込み



おうちでオンライン講演会 おうちで天文・宇宙



11/1(日)
14:00~

太陽研究最前線 - 地上から、宇宙から



ガリレオからALMA・DKISTへ 一太陽観測今昔物語一

下条 圭美 (総研大 准教授 / 国立天文台 准教授)

現代の太陽研究は17世紀初頭のガリレオによる黒点観測からスタートし、その後世紀を跨いで幾多の先人たちが太陽を観測してきました。観測する光が可視光線からX線や電波などの不可視光線へ広がっても、太陽を理解しようとする研究者の欲求は変わっていません。講演では太陽観測の歴史に触れながら、地上からの太陽観測最前線までを紹介していきます。



宇宙からの太陽観測研究から目が離せない

清水 敏文 (JAXA宇宙科学研究所 准教授 / 東京大学大学院 准教授)

太陽観測衛星「ひので」などが牽引してきた宇宙からの太陽研究は、欧米の新たな探査機の飛翔を皮切りに大きく変わりつつあります。

日本も2020年代中盤に次期太陽観測衛星Solar-C (EUVST) を飛翔させ、これらの衛星・探査機などで太陽のなぞを解明しようとしています。私たちの生活に影響を与える太陽を理解しようとする最近の取り組みについてお話しします。

11/8(日)
14:00~

宇宙の始まりを観る - 地上から、宇宙から



巨大望遠鏡で探る100億光年彼方の銀河

但木 謙一 (国立天文台フェロー)

この世界にタイムマシンは存在しない。けれど、すばる望遠鏡やアルマ望遠鏡のような世界最大級の望遠鏡は、僕たちに100億年前の銀河の姿を観せてくれたんだ。でも考えてほしい。宇宙には無数の銀河が存在している。天文学者達はその中からどうやって100億年前の銀河を探したのだろうか?どこまで過去に遡ることができるのだろうか?一緒にその秘密に迫ってみようと思う。



ミリ波偏光観測で探るインフレーション宇宙

関本 裕太郎 (JAXA宇宙科学研究所 教授)

現代の宇宙論観測の精度は、目覚ましく進化している。しかし、「なぜ宇宙はこれほど等方的なのか?」や「なぜ宇宙はこれほど平坦なのか?」といった、疑問が残されている。これらは、開闢直後の急激な加速膨張によって宇宙は作られたというインフレーション仮説を考えると解決される。このインフレーションは、原始重力波を作り出し、CMBに渦巻き状(B-modeと呼ばれる)の偏光パターンを引き起こす。大角度スケールで生じる原始重力波起源のCMB Bモード偏光を検出しようという野心的な計画 LiteBIRD衛星を紹介する。